

徳之島町 町誌編さん だより

(徳之島町内全戸配布)

第11号 2020.11.10

半世紀ぶりの徳之島町誌編さん作業にご協力を！

徳之島町誌近現代部会 委員

たかしろ ひろや

高城 博也（徳之島町役場農林水産課課長・元 郷土資料館館長）



前回の『徳之島町誌』については、徳之島町町制施行10周年の事業として急遽編さんされることになり、作業としては、脅威の速さで編さんされ、昭和45年に刊行されました。それから50年余りを経過し、時代の変化とともに、あらためて町誌の編さん作業と新たな町誌『徳之島町史』の刊行が必要となっています。

当初、町誌編さん事業は町制施行50周年の事業として計画されましたが、なかなか軌道にのることはなく、これまで見送られてきました。それからさらに10年近くを経過し、今回、町制施行60周年記念を機に事業として立ち上げることとなりました。

そのきっかけは、幸野善治副町長就任時の「町誌の再編さんを進めたい」というあいさつからでした。当時、私は企画課長補佐として、地方創生関連施策等を軌道に乗せるべく、さまざまな事業とともに、審議会の設置や過疎計画の見直し策定に携っていて、職務的にあまり余裕はありませんでした。その一方で、私などでも普段から町誌の再編さんの必要性を感じていて、副町長のあいさつを聞きながら「今、取りかからなくては、今後はさらに困難になるだろう」と思いました。以前からその必要性を同様に強く持っておられた高岡秀規町長からの意向もあり、こうして、ようやく再編さん事業が開始するようにその準備が動きだしたのです。

地方創生関連業務等に取り組むかたわら、手始めに、町誌編さん審議会を企画・立案し条例化を進めましたが、そのさなか、私自身まったく予想だにしていなかった郷土資料館館長の拝命（異動）となりました。その後、町誌編さん審議会の設置や編さんスケジュール、編さん作業の予算化や、町誌編さん室の立ち上げ準備等を行いました。現在は、後任者に引き継がれ、担当部署の「町誌編さん室」も無事立ち上がるとともに、編さんする人材・人員も充実し、各専門部会による調査や執筆が進められているようです。

このようないきさつと、さらには現職役場職員で農政経験が長いという理由から、今回、私も町誌編さん近現代部会委員に委嘱され、調査活動を行うこととなったのだと思われます。ちなみに私が担当するのは、近現代部門の主に昭和33年ころ（徳之島町誕生）から平成、令和にかけての農業分野についてですが、意外とこれが大変な作業となります。なぜなら、その当時の記録（公文書・資料等）は紙ベースであったため、保存年限をすぎ、近年の文書整理により数多くの資料が廃棄されていたのです。また、近年の公文書をはじめとする資料の電子化により、その編さん資料の所在が不明確であるとともに、簡素化されたものとなってきていること、さらには本町のこれまでの農業（とくに昭和）を知る人たちが少なくなりつつあるという状況にあります。こうしたことから、原稿の執筆に難を強いられることは間違いないと思われます。しかし、それらを理由に中身の薄い調査活動をするわけにはいかず、現職役場職員としての利を生かし、先輩たちと語り、聞き取った記録を残すなど、今後も活用できるような新たな資料の作成等についても、急いで取り組んでいきたいと考えているところです。

町誌を編さんするという産みの苦しみを理解している一人として、編さん事業に関わる方々に望むことは、「今回の町誌が刊行されたらそれで終わり」というわけではなく、町の1年ごとの記録を町誌の基礎とし、10年ごとの記念誌の発行等も視野に入れながら、今後も、後世に引き継いでいける、発展的な作業を考えてほしいものです。

微力ながら私も頑張りますので、諸先輩、関係者をはじめ、町民、郷土出身者など、多くの方々のご協力を心よりお願い申し上げます。

(令和2年10月17日成稿)

『広報 徳之島』12月号から、町誌の調査成果の一端を毎月紹介！！

『徳之島町史』本編（通史編・地域編・自然編）の刊行に先立ち、本年12月から『広報 徳之島』の誌面を借りて、調査の成果や新出資料の紹介などを毎月連載していきます。その名も「町誌編さんノート」です。町の歴史・文化・自然のさまざまな内容にわたって、町民の皆さんに親しみやすくわかりやすい内容となるよう編さん室員が執筆にあたります。どうぞご期待ください！

徳之島町誌叢書(2)『徳之島町域「農村調査」報告集』〈非売品〉がご好評いただいています！

本年1月に当室で刊行しました町誌叢書(2)『徳之島町域「農村調査」報告集—鹿児島高等農林学校学生調査—』に対し、町の内外からさまざまな反響をいただいています。

鹿児島高等農林学校は、こんにちの鹿児島大学農学部の前身にあたり、明治41年（1908）から昭和24年まで開学していました。「農村調査」というのは、その学生たちに課されていた、いわゆる「卒業論文」のことで、任意の町村の「歴史の概要」や「統計資料」、「農地の利用状況」、「主要産物の特色や栽培方法」、「生産量と出荷量」、「農家の経営状況」、「農業暦」、「風俗習慣」等が報告されていました。町誌叢書のタイトルにあえて「徳之島町域」と断ったのは、徳之島町制施行（昭和33年）以前の「東天城村」と「亀津町」の双方について、町出身者やゆかりのある方が報告を書き残してくれていたからです。そのいずれもが当時の役場資料や実地の見聞などを交えて、戦前期の農村の姿を詳細に記録し、こと細かに分析してくれています。

当室の活動と関わるところで注目されるのは、本紙や町広報等の資料提供の呼びかけに対して町内在住の方から資料の所在を教えていただいた点です。持ち主の方から「農村調査」の副本が我が家に残されていたので、ぜひとも町誌編さん事業に活用してもらいたい」とのお申し出があり、内容の貴重さと史料的価値の高さから、2冊目の町誌叢書の掲載資料に選ばれました。もし皆さんのお手元にも古文書や古写真等がありましたら、ぜひとも当室までお知らせください。

なお、これまで当室では、町誌叢書（資料集）として『基礎資料集』と『農村調査報告集』を刊行しました（いずれも非売品）。しかし前者は在庫切れ、後者も在庫が残りわずかとなりました。島の歴史について興味・関心がおありの方は、町立図書館、もしくは町内小・中学校、各地区駐在員宅あてに配布していますので、最寄りの場所でご覧ください。

町誌編さん事業日誌（抄）

年	月日	内容
令和2年	7月27日	自然部会会議開催（編目案の検討、執筆分担・分量の確認、執筆要綱の確認）。
	8月11日	東天城中学校所蔵資料調査。
	9月26日	近現代部会会議開催（編目案の検討、執筆分量の確認、執筆要綱・注意点の確認）。
	9月29日	井之川中学校所蔵資料調査（町内小・中学校資料調査終了）。

今後の町誌編さん事業予定

年	月日	内容
令和2年	11月28日	先史・古代・中世部会会議（調査の進捗状況の確認、執筆要綱の確認）および分布調査実施。
	12月末	民俗部会・地域文化部会「地域編」調査報告（レポート）提出。
	12月以降	徳之島町誌編さん審議会会議開催（委員の委嘱更新、各部会活動の報告等）。
令和3年	1月以降	近世部会会議開催（調査の進捗状況の確認、執筆要綱の確認）。

徳之島町 町誌編さんだより 第11号

〒891-7101 鹿児島県大島郡徳之島町亀津 2918

徳之島町生涯学習センター3階（徳之島町郷土資料館内） 電話番号：0997-82-2908

徳之島町誌編纂室

本紙編集担当：大村達郎

※ 徳之島町役場では、条例等の法令名や、事業名・部署名については「編纂（へんさん）」の表記を使用しています。本紙では、発行元名を除いて、町民への広報としての役割から「編さん」の表記で統一しています。なにとぞご了承ください。

※ 徳之島町誌編さん事業は、全国の皆さまから寄せられた「ふるさと納税」の一部を活用しています。